

『指摘されない工場を目指して』

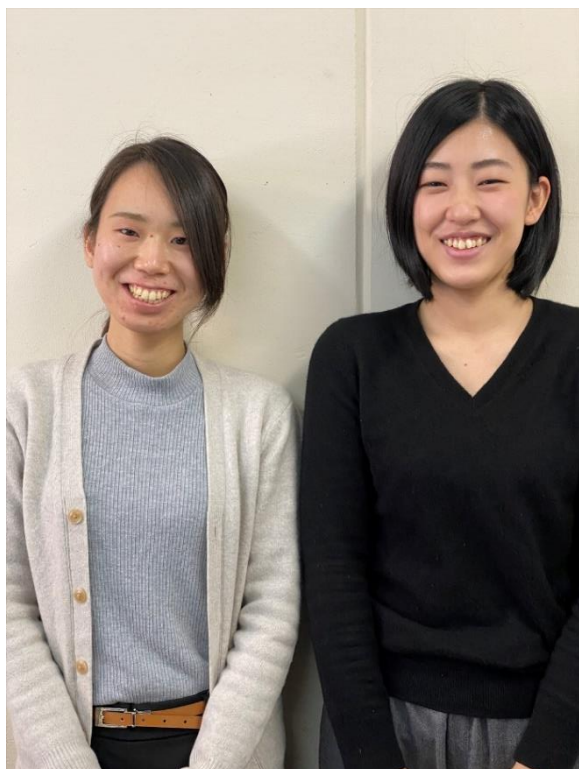
日時：2020年2月19日

場所：エル大阪

株式会社大つる

塔本 美樹

中井 杏奈



1. はじめに

株式会社大つるは今年で67期を迎える大阪市生野区の町中にある惣菜メーカーです。主な業務内容としましては、出汁からこだわり、7基の銅釜で炊き上げる手づくり和惣菜の製造となっております。惣菜だけでなく、年末にはチルドで作ってチルドでお届けする生詰めのおせちを製造しております。

社員構成としましては、20名の内16名が20代と若い社員が活躍中の会社です。また内9名がベトナムの技能実習生です。社員は内向的な性格の人が多く、自主的に行動を起こすことが苦手という問題がありました。

2. 7S活動再開

弊社は2015年の第8回食品衛生7S実践事例発表会にて初参加・初優勝を成し遂げました。しかし、その後は優勝したことに満足してしまい現状維持の傾向に陥ってしまいました。そんな中でも、取引先様は一流企業ばかりで求められるレベルは非常に高く、監査ではご指摘をいただくことがまだまだあります。そのご指摘に対し、都度言われるがままの改善しか行われておりませんでした。このままではいけないと思い、『指摘されない工場』を目指そうと7S活動に力を入れ直しました。

はじめに取り組んだのが『Dr. イエローの7Sカルテ』です。Dr. イエローとは前回優勝した際に発足した活動で、改善した箇所を黄色く色づけ見える化しています。今回Dr. イエローという活動を復活・改善しました。工場を巡回し、気になったところを指摘するカルテを作成し、各現場の従業員に渡します。各現場で改善方法を考え、結果を掲示板に貼る事で従業員全員に周知が可能になります。工場の巡回を普段事務所で働いている私たちがすることにより、見慣れていると気付けない新たな視点からの気づきが生まれました。

また自分たちに足りない知識は月1回花野先生にお越しいただき、工場の巡回、ご指摘、講習や相談等でお力をお借りしております。

Dr.イエロー 7Sカルテ


No. 9 発行日 2018.5.28

Dr.イエローの7Sカルテ

新たな視点による気づき

- 工場を巡回、カルテ作成
- 現場の人たちで改善方法を考える
- 改善結果を掲示板で従業員全員に周知

自分たちで改善方法を考えることで、改善結果を継続する意識が高まる



3. ドライ化

弊社は少量多品種を製造しているため、1日に何回も作業台や機械を洗浄し、床が水浸しの状態が多く発生します。跳ね水の危険性が高く、それだけでなく、水があると湿度が高くなり、カビが生える、そして虫の発生源となります。そのことから私たちの敵は水であることに気づき、今回の7S活動のテーマを『ドライ化』に決定しました。


ドライ化に3つポイントを置き、①濡らさない、②最小限に抑える、③乾かす、ということを目指しました。

4. 改善事例

①洗浄場所

作業台の洗浄の際、作業場の真ん中で洗うと床の広範囲が水浸しになってしまいます。これを排水の近くに移動させて洗うと濡れる範囲を最小限に抑えることができるようになりました。簡単なことですが、1日の作業で何度も繰り返されると水たまりができるので、小さな努力の積み重ねが大切です。

排水側で洗うと・・・



濡れるのはここだけ！

②出汁捨てコンテナ

いらなくなった出汁を捨てる際、出汁が辺り一面に飛び散り、壁や床が出汁まみれになっていました。そこでコンテナの底に穴をあけた『出汁捨てコンテナ』を作成しました。穴から出汁が抜けていくので、排水溝に綺麗に流せるようになり、壁や床が出汁まみれになることはなくなりました。

また製造時や銅釜の清掃でも床が水浸しになっていました。これにはコンテナの側面に穴をあけた出汁捨てコンテナを排水側へ向けて使用することで、濡れる範囲を最小限に抑えることができるようになりました。

溝に流れます



出汁捨てコンテナを使うと・・・



排水側へ



③機械に桶を設置

商品の包装には自動真空包装機を使用しておりますが、商品の切り替わりごとに機械を洗浄するため、その都度床が水浸しになってしまいます。そこで機械の周りに桶を設置し、桶をつたって一か所に水が集まるしくみをつくりました。これはベトナムの技能実習生が器用につけてくれました。



④扇風機で乾かす

1日の終わりには、床全面を洗浄するため全面が水浸しになります。これは避けることができません。一生懸命水かきして帰りますが、それでも翌朝には水が残ってしまいます。そこで帰るときに扇風機を夜中に回るようタイマーをセットして帰るようにしました。さらに除湿機もタイマーをつけて使用しています。雨の日の翌日など湿度の高い日にはバケツいっぱいの水がたまります。こうした試行錯誤を積み重ね、現在では翌朝は床がスッキリ乾いた状態で迎えることができるようになりました。

5. まとめ

努力を積み重ねた結果、無理だとあきらめていた食品衛生監視票の排水の項目が0から3ポイントアップし、ドライ化を大きく1歩前進させることができました。そのことにより、やればできることがわかり自信がつけました。しかしまだ満点ではなく指摘される前に改善できる箇所はまだあります。現状に満足しない、初心を忘れないことが大切だと改めて感じました。

内向的な性格の人が多く、悩みがあっても大きな声で意見を発信することができず、現状維持の傾向にありましたが、悩みを聞きだし、代わりに大きな声で発信することで、みんなで考え改善するという体制ができました。

また7S活動を通し、手先が器用な人や設計が得意な人などそれぞれの得意分野が見えてきたことも大きな収穫となりました。

受け身な人が多いことを逆手に取り、私たちに情報を集め司令塔となることで次のステージに進んでいくという、『大つるらしい形』が見えました。若い力で大つるはまだまだ飛躍していきます。